



# 国際・情報

INTERNATIONAL &amp; INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第21号

(本校) 〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp/  
(新潟中央キャンパス) 〒951-8068 新潟市上大川前通七番町1169番 tel 025-227-7111 fax 025-227-7117

## カナダ・アメリカ留学報告

二〇〇三年度の情報文化学科のアメリカ・ノースウエストミズーリ州立大学への派遣留学と情報システム学科のカナダ・アルバータ大学への夏期セミナーが、それぞれ夏期休暇中に実施されました。参加学生お二人に感想を書いていただきました。

### 今度は紅葉を見に行きたいです、カナダ

情報システム学科二年 小川 麻矢子

ちよつと前に、世界ふしぎ発見で秋のカナディアンロックキーの旅をやっていた。それを見て、私は一時間、秋のカナダに魅了され、テレビに釘付けになった。とにかく、空も、地も、山も、何もかもが大きくて、まるで違う世界にいたみたいだ。今までに味わったことのない感動を与えてくれる。カナダはそんな大げさな所なのだ。

留学での最大の幸運は、素晴らしい英語教師に出会ったことだ。教える方、考える方、感じる方、生徒との接し方、そしてお顔、何をしてもパーフェクトだ。今まで私が出会ってきた先生の中で、これほどまで尊敬できる先生はいない。そして今、カナダの地で見たこと、感じたこと、教わったこと、考えたこと、味わったこと、全てが本当に尊いものだと思えている。英語の最後のテストで、二〇年後も覚えていられるカナダ留学の思い出の自由英作文を書くという課題が出た。そんな課題を出してくれたフライアンにも感動したし、そして、二〇年後でも三〇年後でも、忘れるわけがない。

### 身近になった世界

情報文化学科二年 木村 絃子

初留学、初海外、好きな英語、夢だったアメリカ。一〇人の仲間と共に過ごした一ヶ月のアメリカ留学は本当にあっという間でした。英語でしか意思疎通をはかることのできない環境の中、全てが新鮮でした。そしてなによりも、自分が、外国人であったこと。日本人であることを意識した一ヶ月でした。世界中の国々からの留学生などたくさんの方に会って、ともに学び、多くの刺激を受けました。語学に関しては、大切なのは英語力というよりも自分からコミュニケーションをとろうという姿勢なのだということ。これはどこ地に行っても同じだと思えます。見知らぬ人とも当たり前のように、「Hi」と挨拶を交わす生活を送るのは本当に寂しかったです。一ヶ月という期間はあまりにも短すぎましたが、世界を身近に感じることができたようになった留学は私の世界観を大きく広げました。この留学をひとつのステップとして今後も努力していきたいと思っています。



## 理事長提携校訪問



本学校法人の小澤辰男理事長、関根秀樹専務理事が、本校の提携校である慶熙大学（韓国）、北京師範大学（中国）を10月15日～19日の期間で訪問しました。慶熙大学では、趙学園長、趙総長はじめとする関係者との懇談をはじめ、本学から留学をしている学生の授業の視察及び懇談、施設見学がおこなわれました。また残念ながら本年度の派遣留学が中止となりました北京師範大学でも鄭副学長、楊歴史学部長をはじめとする関係者との懇談、施設見学がおこなわれました。両大学で行われた懇談の席では、お互いの大学の取り組みについての情報の交換をはじめ、今後提携校としてより一層の交流を進めるための意見交換が積極的に行われました。訪問後、小澤理事長は「両大学ともその国を代表する大学であり、大変素晴らしい環境であることを再認識した。このようなすばらしい大学で本学の学生が学ぶことができることは大変幸せなことだと思う。提携校には心より感謝したい。学生諸君には、是非、留学制度を活用して益々進む国際社会に対応する力をつけてほしい。大学としても提携校間の絆をより深めていきたい。」と話しました。



▲北京師範大学にて



▲慶熙大学にて

# ニューヨークの反戦運動

●一年間の海外研究を終えて 情報文化学科助教授 越智敏夫

ニューヨーク大学(NYU)の国際高等学術研究所(ICAS)の共同研究「国際紛争としての冷戦」に本学の海外研究制度も利用して参加してきた。個人テーマは「冷戦期における政治理論の比較研究」だったのだが、この研究をしているあいだにアメリカは冷戦どころかイラクへの熱い戦争を開始する。その意味でICASでの年は良くも悪くも「ブッシュの二年間」だった。

われわれ夫婦がNYUのアパートで生活を始めたとき、同時多発テロからほぼ一年が過ぎ、関連した集会やイベントが全米各地で行われていた。NYUはグリーンリッジ・ヒルズにある。ニューヨーク市内の大規模大学のなかでももともと国際貿易センターに近い。大学の近くでも毎日のように集会が開かれていた。それらに参加してみると、マスメディアで報道される他の地域のものとも違う。

ニューヨークは伝統的に民主党が強い地域である。そのなかでも特にヒルズは六〇年代の公民権運動、学生運動という激動の中心となった地域である。そのせいか近所での集会はほとんどがブッシュ批判を目的としたものだった。大手マスメディアがあればどこでも支持しているブッシュがここではまったく支持されていない。テロ周年の日、ICASの目の前に広がるワシントン広場で行われた集会も「アフガニスタンの人々をこれ以上殺すな。イラクを攻撃するな」と訴えるものだった。その集会がとても印象的だったのは、その集会を企画したのが国際貿易センターで死んだ被害者の遺族のなかのグループだったからだ。

その後、ブッシュはイラクへの戦争を始めるが、私が研究を終えてアメリカを離れるまで、毎週のようにニューヨークでは反戦集会がつづいていた。

戦争が始まってからも抗議している人々は、そんな集会を開いてもブッシュがすぐに政策を変更するとは思っていない。彼らがこだわるのは、自分が異議を申し立てているという事実を残したいということだ。高齢の運動家に話を聞いてみる。ある老人は「自分はマッカーシーの赤狩りの問題を見抜けなかった」と過去を悔いている。また「ベトナム戦争を始めたとき、私は何も反対しなかった」という後悔を持つ七〇代の女性もいた。そのような悔恨が彼らを運動に走らせる。「ここで反対しないとアメリカは良い国にならないから」と彼らは言う。アメリカをより良い国にするために政府に抗議するという論理である。彼らにみる、上の言うことに従うだけの人間が組織を腐敗させるそう。いろいろな嫌なところもあるアメリカ社会である。それでもアメリカの政治理論を研究しているのは、ときどきこういう人々に会っせいかもしれない。



▲約40万人が参加した2003年2月15日のニューヨーク反戦集会

◎教員の活動 二〇〇三年七月一日から十二月三十一日までの教員の研究活動で本人から提示があったものです。

## 著書

◎青淵正幸助教授

前川邦生・青淵正幸編著「例解所得税法入門ゼミナール」創成社、二〇〇三年十月、共著

◎小林元裕助教授

宋志勇・王振鎖主編「全球化と東亜政治・行政改革」天津人民出版社、二〇〇三年九月、共著

## 学術論文

◎青淵正幸助教授

「製造業における株主価値の株価説明力」『工業経営研究』、工業経営研究学会、第十七巻、二〇〇三年九月

◎高橋正樹助教授

「西欧におけるグローバル化と国民国家」『国家の脱国民国家化分析の視座を求めて』『法学新報』、第三〇巻三・四号、中央大学法学会、二〇〇三年八月

◎藤瀬武彦教授

「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」『体力科学』、第五二巻第四号、二〇〇三年八月

◎宗澤拓郎教授、小宮山智志講師、佐々木桐子講師

「地域貢献としての新潟・金属加工市構想」情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム二〇〇三年九月

◎矢口裕子助教授

「性」愛の家のスバイ・Henry&Juneから読み直すAnais Nin「英文学研究」第八〇号、日本英文学会、二〇〇三年一〇月

◎Twittering Machine of Paradise: Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters' A Cafe in Space: Anais Nin Literary Journal, vol. 1, Sky Blue Press, Number 2003

## 学会発表

◎青淵正幸助教授

「DOLBYモデルによる企業評価——FOLFの構成要素別に基盤測定——」経営哲学学会、中京大学、二〇〇三年九月十四日

◎高橋正樹助教授

「直接原価計算による原価管理の実例」工業経営研究学会、高十穂大学、二〇〇三年一〇月

◎日井陽二郎助教授

Strengthening Environmental Law in the European Union: From A Discursive Construction to VACES (英国YUN学会)、英国・ニューカッスル大学、二〇〇三年九月三日

◎區建英教授

「東アジアの近代思想と伝統——殷復と福沢を中心に——」比較史・比較歴史教育研究会、東京大学駒場キャンパス、二〇〇三年十月二日

◎越智敏夫助教授

China and Minamata disease: lessons from the mercury poisoning and political communities. International Conference: Sustainable Growth and Environmental Protection: The Case of

China, University of Duisburg-Essen, Institute for International and Regional Economic Relations, Duisburg, 47171 二〇〇三年八月八日

◎刈部恒徳特任教授

「Heaney's Beowulf 訳」新潟大学英文学会、新潟大学、二〇〇三年一〇月十日

◎小宮山智志講師

「努力」「能力」「意識」が「平等」「意識」に与える影響」計量社会学研究会、立教大学(池袋)、二〇〇三年十一月八日

◎近藤進教授

「FET埋め込みによるFET変調器光吸収層へのFET拡散制御」第六回応用物理学学会学術講演会、福岡大学、二〇〇三年八月二日

◎佐々木寛助教授

「東アジアの原子力政治」(Atom-Politics in East Asia) フランス国立科学研究所(CNRS)総会「フランス・パン・チン」二〇〇三年一〇月十四日

◎長坂格講師

「フィリピンにおける農村―都市移住の現在」日本国際化学会第二回全国大会、早稲田大学、二〇〇三年七月六日

「Cellular Phones and Filipino Transnational Social Fields」Asia-Europe Conference on Computer Mediated Interactive Communication

Technologies (CMICT: The Internet and Mobile Phones, Tagaytay City, Philippines) 二〇〇三年一〇月二日

◎広瀬貞三教授

「一九三〇年代の金剛山「国立公園」化構想」第五回朝鮮学会大会、大理大学(奈良県大和町)、二〇〇三年五月五日

## 講演等

◎青淵正幸助教授

「平成十五年度小売商(販売士)資格更新講習会」長野県佐久商工会議所、二〇〇三年一〇月二日

◎越智敏夫助教授

「アメリカ合衆国とイラク戦争」連続講座「アジアと日本を問う」主催、新潟市万代市民会館、二〇〇三年十一月四日

◎小林元裕助教授

「日中関係論」さわやか大学、三条市風南公民館、二〇〇三年八月二七日

◎高橋正樹助教授

「現代東南アジアと人」新潟県立商業高校校長会、新潟会館、二〇〇三年七月二二日

◎広瀬貞三教授

「今後の日朝関係を考える」とやの福祉協会おもて園、ブライダルステージ「テオ」(新潟市)、二〇〇三年一〇月十五日

「現在の大学と学生生活」新潟県立小千谷高等学校小千谷市、二〇〇三年十一月十四日

◎藤瀬武彦教授

「筋力トレーニング指導者講習会」西津市教育委員会社会教育課スポーツ振興室、西津市総合体育館、二〇〇三年九月六日

# ゼミ紹介

情報文化学科 熊谷 卓ゼミ

わたくしの研究分野は、国際法学です。したがって(というより、なかば強制的に)、ゼミナールの学生たちには、なんらかの形で「法」とからんだトピックを選択し、研究報告してもらっています。とはいえ「法的な濃度の濃さ」は学年に比例します。三年次・四年次の学生は、イラク攻撃の国際法的正当性といった具合に、法学部学生ともかわらない問題を考察します。一年次・二年次ゼミナールにおいては、三・四年次ゼミへの力をつけさせるというこれらのゼミナールの目的もあり、一般的なトピックを素材として研究を行っているということが出来ます。今年度の二年次ゼミナールにおいては、前期に性同一性障害者に関する法状況を共通テーマとし、後期に死刑制度の存置の是非、美容整形に過失があったときの損害賠償

情報システム学科 近藤 進ゼミ

近藤ゼミでは、通信と光に関わることを取り扱っています。エレクトロニクスの急激な進展により、情報通信は大きく変化し、移動通信に特化した無線通信と大容量の特徴を持つ光ファイバー通信に変わっています。

ゼミ全体では、「独立した情報端末をどこかに作り、通信方法を工夫し、情報をゼミ室に集める。」が目標です。このため、独立した装置の電源として、太陽光発電・風力発電も行っています。

具体的なテーマは、「地上波デジタル放送」「大学構内での無線LAN」「携帯電話の新しい応用」「無線MANの実用性と将来性」「大学での太陽光発電」「集光による太陽光発電」「携帯電話の電界強度」などです。太陽電池は、光と電気の関係をまなぶ入り

償の請求および子供たちをとりまく環境について検討しました。トピックが身近なためでしょうか、あるいは「法律問題相談番組」の影響でしょうか、ときに議論が白熱し、与えられた時間の枠組みを越えて議論が続けられることがあります。児童虐待について検討していくなかで、「はたして『母性』は自明のものかどうか」といった疑問も提示されました。

通常、法律や判例の解釈論に関心を有するわたくしが、学生たちの鋭い指摘から学ぶことが多いため、このように時です。



口です。まだ不十分ですが、オシロスコープ、スペクトルアナライザ、分光器、高周波レシバなどの測定機器があります。

卒業研究では、本や文献等で学び、目的の装置やシステムを作ったり、測定したりします。何回か失敗を重ねて、それを解決していく課程を大事にします。またゼミでは、携帯電話通信局の見学等を行っています。

光や通信に興味のある人はもちろん、実験をやってみよう、研究をやってみよう、人は気軽に声をかけてください。



## 情報文化学科卒業論文中間発表会、開催される

情報文化学科三年 幾野 貴子

十月八日、四年次生の卒業論文中間発表会が開催され、私は役員として参加した。今年度からカリキュラムが変わり、今まではゼミ単位による自由参加だったが、全ゼミ全員参加となった。前年までは違い、人数も増え、これまでとは違う発表会を三年次生の役員で運営、進行了。準備も夏休み前から始め、何回も集まり、地域住民の呼び掛けや近隣にポスターを貼って宣伝活動もしてきた。毎週集まって準備を進めることや発表会当日も二日中報告を聞いているのはとても大変だった。しかし必ず卒論を書くときがくるので、そのときのためにいい経験ができたと思う。

また、この中間発表会は私にとって初めての参観となるものだった。卒論のテーマは色々あり、関心を持ったものが多かった。例えば、安楽死と尊厳死というものが多かった。これは人の人の報告ではなく安楽死をテーマにした人と尊厳死をテーマにした人が別々に発表したものだ。以前、講義で安楽死というものについて教わったのでとても関心があった。どちらか死をテーマにしていて、自分

で自分の死を選択できるものである。日本は安楽死を行うことに賛成ではなく、実行することに条件がいくつか課せられており、二つも条件を満たさないと、立ち会った医師が逮捕される場合がある。日本とは逆に、安楽死を尊重している国では、死は自分で決めるものとしている。また、尊厳死も安楽死と似ていて、これ以上つらい治療を続けるのなら、静かに死を待ち、好きなことをしてそのときがくるのを待つというものである。尊厳死については安楽死ほど知識がないので詳しいことはわからないが、決定的な違いは自分から薬を飲み、死を招くことと自然な死を待つことである。もっと深く調べていけば違いがわからなくなるかもしれない。

こういった内容の濃いものを一から詳しく調べることが容易ではない。それをまとめ、発表すること聞いている側にも考えさせるという発表は、今後の生活や学習、卒業研究を手助けようとしている人達にとって良い参考となると同時に、良い刺激を与えてくれたのではないだろうか。





## 企業懇談会

今年も11月5日(水)、ホテル新潟に於いて「企業懇談会」が開催され、県内外から230名の方々の参加をいただき大変盛会となりました。

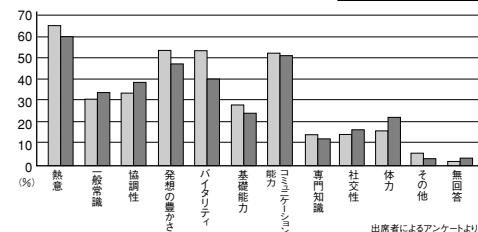
この懇談会は、学生の就職活動支援の一環として企業の代表者や人事担当者を招き、本学をご理解いただくと同時に、就職活動へのご協力に対する感謝の会として毎年秋に開催しています。当日は第1部として、学長武藤輝一の挨拶、各学科長による学科説明、就職指導委員長による就職状況説明後、特別講演としてエコノミスト 原田和明氏より「今後の景気と中小企業の対応」について、講演をいただきました。

引き続き第2部として、懇親会が三越新潟店長 岩井幹雄氏の乾杯の発声で始まり、教職員は名刺

を片手に企業様の各テーブルを回り、卒業生採用のお礼や次年度の採用計画等についての情報収集に汗を流していました。



大学生に求める資質(複数回答あり)



## 就職活動スタート

### 「3年次生の父へ」

3年次生の就職活動が年を明けると本格的にスタートします。大学主催の就職ガイダンスも10回のうち8回が終了しました。

今年就職ガイダンス以外に後期の水曜日を利用して「マスコミセミナー」「スーパーマーケット勉強会」「卒業生による企業説明会」等、学生が今後の就職活動をスムーズに進められるようサポートして参りました。学生はガイダンス等を通じて「就職に対する心構え」が徐々に出来つつあると思います。

1月からは、本格的な就職活動に入る前のラストスパートとして、個別面談、模擬面接、学内合同企業説明会を実施いたします。

そして、いよいよ2月から就職活動の本番を迎えます。就職指導委員をはじめ、教職員、体となって学生をサポートして参りますが、最も重要なのは学生一人ひとりが最後まで「戦い抜く」強い気持ちです。

そこで、就職を決めるための、幾つかの要点を記します。

- (1) 自分の適性、希望を明確にする(自己分析)。
- (2) 業界研究、企業研究をする(エントリー、資料請求等をしっかりと)。
- (3) モラル、マナー、エチケット等をしっかりと(ビジネスマナー)。
- (4) 積極的に合同企業説明会に参加及び会社訪問をする。
- (5) 積極的に採用試験を受験する。
- (6) 簡単に就職は決まりません。原因を考え、次に生かす。最後まであきらめず粘り強く活動する。
- (7) 早目早目に就職課等に相談する。

以上が就職決定までの道のりです。これから初めての経験で不安なことばかりだと思います。どうぞご父母の皆さんからも是非就職活動を応援し励まして下さいますようお願い申し上げます。

就職課は、学生の就職活動を支援するためにあります。心配事やわからない事、どんな些細なことでも遠慮せず相談するよう併せて、ご指導くださるようお願い申し上げます。

## 内定者

内定先 浩南株式会社

情報文化学科4年

興裕

絵美

私は3年次生の1月頃、周囲の雰囲気から流される様に漠然と就職活動を始めました。会社の資料を集めたり、試験を受けたりしていましたが、その中ですと、私は何か違和感を感じていました。就職活動を始めて2ヶ月経った頃、その違和感は何かという事をようやく考え始めやうと「私は中国留学で得たこの語学力を活かせる仕事がないんだ」と思い当たりました。それを先生に相談し、その時にある中国関係の仕事を紹介して頂き、4月からそこで働けることになりました。結局私は、自己分析をするのが遅かったのです。これから就職活動をする皆さんには、是非、早めの自己分析を心掛けて欲しいです。自分が何をしたいのか、まずはそこからです。就職活動は何ヶ月も続かないのです、疲れることも減入ることもあると思います。そんな時は、友達だけじゃなく、就職課の方や先生、カウンセリングも利用してみて下さい。気分転換も時には必要ですよ。

### 学生生活(インターンシップ)体験

〈実習先〉ホテル新潟

情報システム学科3年

高橋

涼

私が数ある学外実習候補の中からホテル新潟を選んだのは、バイトで培った自分の接客サービスのセンス、能力が、接客業の代表格とも言えるホテルで通用し、生かせ、そして楽しめるかを試したかったためである。

初日に「1日9時間、2週間の実習を行います」と言われたときは、気合を入れて髪を短く切ってきた自分でも正直引けをうったが、終わってみると達成感に溢れた。宴会、宿泊、レストランと各部を体験させていただいたが、接客業に携わる人というのはやはり人なづきがよく、人に対して優しさや参み出ている人が多かったため、2週間もの長い期間だというのに心地よく実習を進めることができた。

この実習によって得たものはテーブルマナーと自信である。バイトによって得たコミュニケーション能力をこのホテル新潟の実習によって再認識し、この実習で得た経験を織り交ぜ磨きをかけ、そしてこの能力を財産にしていきたい。

〈実習先〉FM新潟

情報文化学科3年

菅家

知子

FM新潟は女性がとても活躍している職場であり、一人ひとりがアイデンティティを持てていて誰に対してもきち

〔内定先〕新潟セックス株式会社 情報システム学科4年 小林 渉

私が就職活動を進めるにあたって、「一番考えたことは、自分は将来何がやりたいのか、そして自分は今何ができるのかを考えた。今まで自分自身をよく考えたことのない私は、正直ものすごく焦りを感じていた。つまり、就職活動のスタート時点では決して良い状態ではなかった。

就職活動を進めていくに従って、何回も自分の事を見直し、合同説明会などで様々な業種の話聞いていくうちに、自分が本当にやりたかった業種や職種はこれなんだということが次第に分かってきた。今では、一番やりたかった業種や職種が内定先に決まり、本当に良かったと感じている。

後輩に対してアドバイスとしては、まず自分自身を見直しやすい機会なので、時間をかけて自分というものを見ていきましょ。そして、様々な人の話を聞き、本当にやりたい仕事は何なのかを考えましょ。必ず希望した仕事に就職できるはずですよ。

んと意見を言うことのできる職場である。私はこのような印象を受けた。

パーソナリティも女性が多くてそれぞれが番組の構成から放送までほとんど一人でやっている。また個々のキャラクターも十人十色という感じで同じ番組を聴いていても、何故か全く違う番組かのように感じることができた。私はFM新潟に行つて何よりもまずこの会社の雰囲気がとても好きになった。

実習中には仕事の事でそれ以外の事で色々な人がアドバイスくれた。中でも最も印象に残ったのは、サウンドフラッシュを担当する番井奈歩さんで、私は彼女に「笑顔、緊張、感謝」と言われる言葉を教えてもらった。「見、当然のようにも思えるが、相手(リスナー)の事を考えているからこそ、このような目標が持てると思った。

私は将来、人と接する仕事に就きたいと考えている。そのために、番井さんのこの言葉をいつも頭にいて他人を思いやれる社会人になりたいと思う。



## 本校の提携校

### ■夏期セミナー



#### >>> 北米コース

アルバータ州立大学

カナダ・アルバータ州の州都エドモントンにある総合大学。  
【<http://www.ualberta.ca/>】

### ■派遣留学



#### >>> ロシアコース

極東国立総合大学

19の単科大学と約40の学部を持つロシア極東最大の総合大学。留学生も多く、外国人用の特別なフロアを設けるなど治安にも留意されています。【<http://www.dvigu.ru/>】



#### >>> 中国コース

北京師範大学

北京大学、精華大学と並ぶ中国の名門大学で、多くの学部や研究所を有する総合大学。北京市内で、社会学や日常生活にも便利です。【<http://www.bnu.edu.cn/>】



#### >>> 韓国コース

慶熙(キョンヒ)大学

首都ソウルにある開校50周年を迎えた名門私立大学。10学部16大学院を持つ総合大学で、外国人向けの韓国語教育で高い評価を得ています。【<http://www.kyunghee.edu/>】



#### >>> アメリカコース

ノースウエスト・ミズーリ州立大学

アメリカ中西部カンザス・シティから車で1時間半くらい、静かな学園都市メリーヴィルにある3カレッジ22学部の総合大学。【<http://www.nwmissouri.edu/>】

## 派遣留学・夏期セミナー

本学では、国際教育の一貫として、学生の留学を強く奨励しています。情報文化学科の『派遣留学制度』及び情報システム学科の『夏期セミナー』共にカリキュラムの一貫として実施していますので、留学をしても4年間で卒業することが可能です。尚、参加者には奨励金が給付されています。

[スケジュール(予定)]

### 2003年

11月 説明会(夏期セミナーカナダ)

12月 説明会(派遣留学)

### 2004年

1月 参加仮申込・参加学生最終決定  
(派遣留学アメリカ)

4月 参加仮申込(派遣留学ロシア・中国・韓国)

履修登録(参加申込)・事前研修開始(夏期セミナーカナダ)

5月 参加学生最終決定・事前研修開始  
(派遣留学ロシア・中国・韓国)

6月 参加書類の提出

7月 奨学金授与式・歓送会参加費用の納付

8月 カナダ夏期セミナー開始(9月帰国)

アメリカ派遣留学開始(9月帰国)

韓国派遣留学開始(12月帰国)

9月 中国派遣留学開始(2005年1月帰国)

ロシア派遣留学開始(2005年1月帰国)

## 公開講座 「情報システム持論」

本学情報システム学科(3年次以上)を対象とする授業の講義部分を一般に公開いたしました。

#### 〈第1回〉

日時: 2003年10月29日(水)  
14:50-16:20 (90分間)

テーマ: 小須戸町における情報化施策と課題  
講師: 小須戸町 総務課副参事 加藤正樹氏

#### 〈第2回〉

日時: 2003年11月5日(水)  
14:50-16:20 (90分間)

テーマ: ソフトウェア産業の動向と課題  
講師: (株)ソネット 代表取締役 野中一克氏

#### 〈第3回〉

日時: 2003年11月12日(水)  
14:50-16:20 (90分間)

テーマ: GPS測位システムとモバイルコンピューティング応用  
講師: 東海大学非常勤講師・元本学教授 工学博士 稲宮健一氏

#### 〈第4回〉

日時: 2003年11月26日(水)  
14:50-16:20 (90分間)

テーマ: 地上波デジタル放送と地方局の対応  
講師: (株)新潟放送メディア事業局 メディア事業部長 梅津雅之氏

#### 〈第5回〉

日時: 2003年12月3日(水)  
16:30-18:00 (90分間)

テーマ: ソフトウェア開発の定量化手法-特に生産性と品質の問題に関して  
講師: (株)構造計画研究所 取締役 上席執行役員 味生 威氏

「その後」が表題に含まれています。また、後者の招

第85回情報システムと社会環境研究会が、平成15年9月27日(土)に新潟中央キャンパス9F会議室で開催されました。情報システムと社会環境研究会は情報処理学会の研究会のひとつで、情報システム学科と最も関係の深い学会活動を行っている研究会です。第85回の研究会は「地域と情報」をテーマとして開催されましたが、本学からも「地域貢献としての新潟・金属加工市構想」として宗澤 小宮山、佐々木先生の共同研究の成果と、桑原先生による「大学の役割とIT化に関する考察」の発表がありました。他にもXMLDBを用いた水産物取引データ転送実験(若手県立大学)やNPO法人信州大学地域連携プロジェクトの試み(信州大学)といった発表が行われました。

一般発表の他に地域に活動拠点を置く企業関係者による招待講演も予定され、「インターネットビジネスその後」躍進する有機米」として加茂有機米生産組合代表の石附健一氏による講演と、「小出郷の広域情報化について」として有限会社システムサポート社長の佐藤徳子氏による講演も行われました。前者は大学ができて3年目に本学で同研究会が開催された時に発表した内容の続きという意味で「その後」が表題に含まれています。また、後者の招待講演の演者は本学の学生でもあり、地元小出郷の情報化プロジェクトの実状と問題点の指摘からなる講演でした。



## 第85回情報システムと社会環境研究会 本学を会場に開催

情報システム学科教授 高木 義和

このような学会活動などに参加することにより、最新の学術情報に触れることができるとともに、全国的な情報を取り巻く動向も理解できるはずです。新潟中央キャンパスでは初めての学会の開催でしたが、今後このような学術活動が新潟中央キャンパスで開催される機会があると思います。学会には会員以外の方でも参加が可能ですので、興味がある学会が開催される時には参加すると良い刺激になると思います(会費は必要ですが)。

## 平成15年度紅翔祭を終えて

紅翔祭実行委員長 桑田 和征

平成15年度紅翔祭は皆様のご協力のお陰で盛大に開催することができ、無事に終えることができました。

今年の紅翔祭は本学創立10周年、記念すべき第10回目という事で、様々な事に挑戦し、多くの時間を費やしました。2日間という短い期間の中でどれだけお祭りを盛大に行うことができるか。今年は実行委員が未経験者ばかりで何を行うにおいても苦難の連続でした。その中で先輩方のアドバイスや関係者の方々にご協力を仰ぎ、多彩なイベントを行うことができました。

今年は昨行い大好評を博したライブイベントにおいて、地元FM新潟さんとの共催という形で、アーティスト“Sow-e-u”のライブを行いました。当日は700人を越す来客があり、大盛況で終えました。また父母同窓会の皆様主催の永六輔氏の講演会では800人も来客があり、こちらも大盛況で幕を閉じました。キャンパスミーティングにおいても昨年以上に好評だったと思います。

紅翔祭実行委員長として僕は未熟だったかもしれませんが、仲間の大切さ。僕は仲間を支えられ、実行委員長という任務を無事遂行する事ができたと思います。本当に感謝しています。

最後に、紅翔祭を終え、紅翔祭実行委員会、学生会執行部を代表し、ご寄付いただきました企業、教職員、ならびに温かいご協力を頂いた全ての方々にご場を借りて心よりお礼申し上げます。是非来年も宜しくお願い致します。



## ビジネスメッセを終えて…

情報システム学科4年 多賀 祥治

昨年に引き続き今年もビジネスメッセに参加しましたが、今年は昨年以上に大きな収穫がありました。それは研究発表という内容にとまらず、よりビジネス的な側面を持つて参加することが出来たこと。そして実際に企業と今後につながる具体的な話が持てたことです。

イベント開催中において、本研究内容に似たシステムでビジネスをされておられる企業と出合い、実際に今後協力関係を構築・維持していくという事で話がまとまったことや、他にもIT事業の組合を設立されてお仕事をされている方や個人でお仕事をされている方とも情報交換ができたこと。さらに就職に関しても、県外企業の方から積極的な話を受けることができ、実際に次の企業合同ガイダンスに参加したいとの話を頂くことができました。

こうしたやりとり、つまり産・官・学・民が協同して産業を盛り立てていくという姿は本来なくてはならないのかもしれませんが、特にこの新潟県においてはこれらの各要素が相互に協力し合うことで互いの不足するところを補足し合い、秀でたものはさらに活かしていく。そうした連携が、今後の産業の発展においても重要であると考えます。

情報化時代と言われる世間では「ネットワーク」「共有」というキーワードが浸透してきましたがこれは単に知識や思いを分かち合うだけでなく、共有し合うことで新しい財産・価値を生み出す、しかもそれは足し算の計算ではなく掛け算の計算により生み出されるものであると思います。

そういった意味でも、今回のビジネスメッセの参加は非常に多くの情報を共有でき、そして今後活かせるものを生み出すことができたと思います。このような流れは、今後は非とも継続していつて欲しいと思うと同時に、このような機会を得られるビジネスメッセに来年以降も引き続き参加したいと思います。

最後に、本校のブースへお越し頂いた方々、並びにイベントを開催して下さった関係者の方々、心より御礼申し上げます。



## 平成15年度公認団体の主な活動成績

期間	団体名	大会名	開催場所	大会結果
4月11日	バドミントン	第47回北信越大学バドミントン選手権大会	石川県	男子1部昇格、女子1部優勝
4月19日	軟式野球部	平成15年度新潟地区大学軟式野球連盟春季大会	新潟市	全国大会出場決定
5月3日	バスケットボール	第37回世本杯争奪北信越学生バスケットボール春季リーグ戦	福井県	3部A 2位
5月4日	フィットネス研究会	第15回全日本ジュニアアームレスリング選手権大会	茨城県	男子ライト・レフトハンド+70kg 優勝
5月17日	陸上競技部	第77回北信越学生陸上競技対校選手権大会	新潟市	槍投げ幾野貴子優勝→全国へ
5月18日	フィットネス研究会	第28回新潟県パワーリフティング選手権大会	新潟市	佐藤 司 優勝、山本浩之 準優勝
5月21日	バレーボール	第34回春季北信越大学バレーボール選手権大会	石川県	2部リーグ3位
5月25日	バドミントン	第161回新潟支部バドミントン大会	新潟市	阿部ベスト4
7月4日	陸上競技部	第72回日本学生陸上競技対校選手権大会	神奈川県	幾野貴子やりなげ全国18位
8月6日	バドミントン	北信越バドミントン選手権大会	富山県	シングルス 岡 香織 優勝、ダブルス 岡・西須ペア優勝
8月18日	軟式野球部	第26回全日本大学軟式野球部選手権大会	広島県	1回戦負け
8月24日	バドミントン	佐渡オープンバドミントン大会	両津市	西須・最上ペア優勝
8月30日	陸上競技部	第47回北陸陸上競技選手権大会	福井県	小林・山之内・武田・笹谷4x400Mリレー2位
9月27日	バレーボール	第20回信越大学バレーボール大会	長野県	第3位
10月5日	バドミントン	第51回田村杯・第16回市嶋権争奪バドミントン選手権大会	新発田市	女子シングルス 西須準優勝、岡ベスト4
10月11日	陸上競技部	第34回北信越学生陸上競技選手権大会	石川県	3000M決勝3位 渋谷俊和、槍投げ幾野貴子優勝
11月3日	陸上競技部	柏崎陸上競技記録会	柏崎市	400M優勝 武田喜雄、5000M優勝 渋谷俊和 4x100Mリレー優勝 角山・本間・青柳・笹谷 スウェーデンリレー優勝 角山・石川・笹谷・武田 槍投げ優勝 幾野貴子 入賞多数
11月7日	バドミントン	第48回北信越大学バドミントン選手権大会	富山県	女子1部2位、男子1部3位
11月12日	バレーボール	第51回秋期北信越大学男女バレーボール選手権大会	新潟市	男子2部リーグ3位

学事日程  
2004

1月 8日(木)	授業開始
20日(火)	後期授業終了
21日(水)~27日(火)	後期定期試験
16日(金)	休講(センター試験準備)
17日(土)・18日(日)	センター試験
2月 2日(月)	前期入学試験
3月 8日(月)	後期入学試験
15日(月)	~春期休業
23日(火)	卒業式
31日(水)	学年終了

## 平成15年度卒業式

**日時** 平成16年3月23日(火)  
13:00~14:30  
(受付12:00~)

**会場** 新潟市民芸術文化会館



## 大学見学

いつでもお気軽にいらしてください。

本年度も高校生を中心として、ご父母・企業・中学生等、約850名の皆様が来校されました。

来校された皆様には、学内(施設)の見学、体験授業等ご希望に合わせ様々な体験をいただいております。来校された皆さんからは、「大学を身近に感じることができた」「大学がより理解できた」等々感想をいただいております。

どうぞご見学等のご希望がございましたらご遠慮なくお問い合わせください。

### 来校者(順不同)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ■私立日本文理高校   | ■県立長岡商業高校   |
| ■県立小千谷高校    | ■県立巻工業高校    |
| ■県立巻総合高校    | ■県立吉田高校     |
| ■豊栄市立光晴中学校  | ■県立村上高校PTA  |
| ■県立分水高校     | ■県立三条東高校PTA |
| ■県立出雲崎高校    | ■県立新潟東高校    |
| ■新潟市立山の下中学校 | ■県立寺泊高校PTA  |
| ■県立荒川高校     | ■県立村松高校     |
| ■県立新井高校     | ■県立寺泊高校     |
| ■福島県立西会津高校  |             |

### 体験授業の一例

#### ●異文化理解

「韓国・北朝鮮を学ぶ」

「日韓文化の同質性と異質性—生活文化を中心として—」

「日本は極東か?日本海の名称はどこが問題—共生に向けた異文化理解とオリエンタリズム—」

#### ●パソコン(情報処理)体験

「カレンダー作成」

「コンピュータを使って数学の問題を解いてみよう」

「シミュレーションソフトウェアを使っての仮想工場モデル」

## 学外講義・講演

上記の体験授業の他に中・高等学校、団体等からの依頼により学外での講義・講演も行っておりますのでお問い合わせください。

お問い合わせ  
事務局総務課

025-239-3111

## 新潟中央キャンパス

951-8068 新潟市上大川前通七番町1169番  
TEL.025-227-7111 FAX.025-227-7117

### 施設紹介(1~9階)

開館時間 月~金 9:00~20:00 土 9:00~17:00

学生はもとより、1階・2階は学外の方もご利用いただけます。是非、お近くにお越しの際にはご利用ください。

また、セミナー室、講堂など施設の貸出しをしております。ご利用を希望される場合、詳細につきましては、新潟中央キャンパスにお問い合わせください。

### 9F

●講堂1 ●講堂2(計250名/机付での使用は210名)

### 8F

●セミナー室(4室、各20名) ●会議室(30席)

### 7F

●会議室(25席)  
●バンケットホール(130席)

バンケットホール

### 6F

●セミナー室(5室、各20~30名) ●会議室(35席)

### 5F

●演習室(4室、各20~30名) ●卒業研究室 ●教員研究室

### 4F

●メディア演習室(5室、各14~40名) ●教員研究室

### 3F

●演習室(6室、各16~30名)  
●PC実習室

演習室

### 2F

●情報・図書室 ●閲覧コーナー  
●情報検索コーナー/無線LAN  
●校友室「みぎきサロン」 ●事務室

1200冊の図書が配架されており自由に閲覧できる他、貸出しもこなしています。  
また情報検索用のパソコンも設置されており、常時インターネットに接続可能で学外の方も無料でご利用いただけます。



閲覧室

ラウンジ

### 1F

●学生ホール ●資料展示コーナー  
●カフェテリア「YOU&I」/無線LAN



カフェテリア「YOU&I」



JR新潟駅万代口より  
市内バス5分。本町下車徒歩1分。

### アンケートにご協力ください。

新潟中央キャンパス内には、授業以外にも公開講座、講演会、資格取得講座及び産官学連携推進事業の開催等、地域社会に貢献することを目的としたエクステンションセンターを設置しました。

つきましては、同封のアンケートにご協力ください。

## ■平成16年度 一般入試日程

◎詳細は募集要項でご確認下さい。

前期	情報文化学科	35	95	16.1.6(火)~1.22(木)	16.2.2(月)	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
	情報システム学科	60				
大学入試センター試験	情報文化学科	15	35	16.2.5(木)~2.13(金)	———	学科試験を課す、16年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点。3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
	情報システム学科	20				
後期	情報文化学科	10	25	16.2.20(金)~3.2(火)	16.3.8(月)	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
	情報システム学科	15				

●本学の平成16年度入学者選抜試験が11月16日の推薦入試から始まりました。推薦入試の受験者数は昨年度比122%でした。一般入試の日程は上記の通りです。願書等ご希望の際は本学学務課教務係までお問い合わせください。

新潟国際情報大学学務課教務係 〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 電話(025)239-3111 FAX(025)239-3690

## 新潟国際情報大学 学費特別給付奨学金

一般入学試験(前期)の成績により奨学金が給付されます。

情報文化学科	3番以内—I種	8番以内—II種
情報システム学科	5番以内—I種	14番以内—II種

- I種 授業料全額(年額650,000円)  
II種 授業料半額(年額325,000円)

# 卒業生の便り

新潟大学大学院 自然科学研究科 博士課程前期二年 石川 雅浩

情報システム学科 二〇〇二年度卒

母校、新潟国際情報大学を卒業して、早いもので二年の月日が過ぎようとしています。このような文章を書く機会に恵まれるとは二年前には考えてもいなかったので驚いています。拙文ながら、簡単に近況報告と今後の予定を書いてみようと思います。

僕は今、新潟大学の修士課程に在籍し、来春卒業を控えています。大学院では、胸のレントゲン写真に関する研究を行っています。具体的には、レントゲン写真を処理して見やすくすることで医師の診断を支援しようという研究です。実は今、その成果報告として、2日後に学会を控えている最中です。学会が終われば、一月には修士論文をまとめる期日が迫っておりまだまだ多忙な日々が続きます。研究は、うまくいくこともあれば、失敗して落ち込むこともあります。しかし、なんとこれも遣り甲斐があり、充実した毎日です。思えば、大学四年の夏、卒業研究を決められず迷っていた際に先生に勧めていただいたのが切っ掛けでした。当時は、こんなに長い付き合いになるとは夢にも思いませんでした。しかし、先生に根気良く教えていただき、手探りだった医用画像の世界の魅力に触れ、現在の進路を選択することになりました。今でも研究方針に迷った際には、よく相談のつももらい良いアドバイスを頂いています。また、担当では無かった多くの先生方にもご支援いただき、とても感謝しています。研究の話ばかりになってしまいましたが、研究会を通して岐阜や東京を訪れる機会もあり、実はそれが良い息抜きになっています。見聞を広げる意味でも、そういう機会を増やしていけたらと思っています。

今後の予定は、修士課程でやりきれなかった目標を実現するために、博士課程に進学して研究を続ける予定です。研究題材も、レントゲン写真に限らず胸部CTやマンモグラフィなどの医用画像にも挑戦したいと思っています。日々学ぶ事が多く、不安もありますが卒業生として恥ずかしい事の無いようがんばりたいと思います。



## アンニョンハセヨ

慶熙大学招聘講師

全 美順(チョン・ミスン)



ソウルの慶熙(キョンヒ)大学と新潟国際情報大学の交換教員プログラムで、去る9月15日から6ヶ月間、韓国語を教えています。明るくてまじめな学生たちと、親切な先生のお陰で、毎日楽しく生活しています。新潟に来てからあまり日がたっていない時、高橋先生から質問を受けました。「白鳥見ました?」「はい、最初来た時挨拶をしました」「ああ?うう」。私は、その「白鳥」という言葉を「学長」と聞き間違っ、そのように答えたのです。ちなみに、韓国語で学長は「ハクチョン」と言います。後で私が間違ったことがわかり、先生と一緒に笑ったことがあります。私の6階の研究室で群れになってきれいに飛んでいく白鳥を見るたびにいつもそのことを思い出します。

新潟で学校に来るのは、まるで旅行に行く気持ちです。ソウルのように毎日混んでいる地下鉄に乗りたくてもいいし、同じ電車の中で学校の先生や学生に会って楽しく話し合ううちに学校に着きます。また、学校では厳しい先生の姿ですが、飲み会の席では普通の友達のように自由に笑ったり話し合ったりする先生たちの姿がとてもうらやましいです。新潟に来てもう3ヶ月になりますが、新潟での楽しい生活を一生忘れないと思います。大事なたくさんさんの思い出を作ってくださった広瀬先生と申先生、純粋な学生たち、毎日キムチを食べさせてもらっている食堂のおじさん、山本室長をはじめ事務の方々、本当にありがとうございます。



## 湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

学生の満足、地域社会の満足

情報文化学科助教教授(広報委員)

高橋 正樹

内輪の話になりますが、広報委員会は学外の方に広く大学を知っていただくことを仕事としております。この「国際・情報」誌もそのひとつの媒体であり、大学の活動内容をお伝えすることが、大学を身近に感じていただく最良の方法だと思っています。

ただ、どんなに広報を工夫しても、結局は、学生が大学に満足してくれることに勝る広報はないと思っています。そして、学生の満足にとつて重要なことは、学ぶ意欲を強くもった学生にどれだけ教育の現場で応えることができるかだと思います。学生が大学に満足してくれば、かれらがサポーターになってくれるはずで、その意味で、大学とは基本的には教師と学生との学びの共同作業の場である、という原点に常に立ち返る必要があるように思います。

同時に、地域に根ざした大学という観点から、地域社会の満足も重要になってきます。九七年に出版された『新潟からの提言―大学が地域を変える(新潟日報社)』を読むと、それまで新潟では、地域社会と大学がいかに遠かったかと不満が示されています。本学では大学と地域社会との橋渡しをするために、開学当初から地域交流委員会を中心に活動してきました。とくに開学時に地元自治体から多くの支援を受けた本学にとつて、この地域交流とは地域社会へのお返しの部分だと思っています。中でも「パソコン講座」や「映画の中の市民社会」はお蔭様で好評を博してきました。とくに「映画の中の市民社会」はすでに五年目に入り、新潟県と新潟市の両教育委員会の後援を受け、シネウインドの協力を得て、地域社会と大学と結ぶ企画として定着してきました。毎年四回の連続で毎回百名近くの方に「参加いただき、新聞やテレビでも取り上げていただきました。これは地域社会に満足していただいている証拠かと思っています。

学生や地域社会の満足が大学にとっていかに大切かは、良い試合をしてファンを大事にすることで熱烈なサポーターを獲得しているアルビレックス新潟をみても、つくづく感じることです。